

「英語コミュニケーションⅡ」学習指導案④

日時 令和7年6月10日  
 対象 40名  
 学校名  
 授業者

1. 単元名

Lesson 3 "Accessible Japan" (CROWN English Communication II, 三省堂)

2. 単元の目標

- 障がい者のために活動するジョシュ・グリスデイルさんの生き方や、観光バリアフリーに関する英文を読み、要点を理解し、自分の考えを持つことができる。
- バリアフリー社会の実現に向けて、「自分なら何ができるか」という視点を持ち、話し合ったり英文で書いたりして発信することができる。
- 「聞く・読む・話す（やり取り・発表）・書く」の4技能5領域を通して、多様な視点に触れながら主体的・協働的に学習に取り組むことができる。

3. 関連する学習指導要領における領域別目標

(1) 聞くこと	(イ) 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
(2) 読むこと	(イ) 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
(3) 話すこと [やり取り]	(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたことを読み取り、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。
(4) 話すこと [発表]	(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたことを読み取り、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。
(5) 書くこと	(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたことを読み取り、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

4. 言語材料

【文法事項】さまざまな分詞構文（受け身・否定・完了）、強調構文（It is/was ~ that...）

【表現】「～するべきだ」「～と思う」などの意見表現、相手の意見を尋ねる表現

【語彙例】accessible, disability, diagnose, severe, cerebral palsy, electric など

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識>さまざまな分詞構文・強調構文、「～するべきだ」と伝える表現などを理解している。 <技能>英文を正しく読み取り、対話や文章の中で情報を聞き取ったり表現したりすることができる。	本文内容に対して、自分の意見や考えを深めながら、情報を選択・整理し、英語で簡潔に伝えることができる。 ペアやグループでの話し合いで、他者の意見を聞きながら自分の考えを調整できる。	社会的なテーマについて自ら問いを持ち、思考・対話・表現に前向きに参加しようとしている。 振り返りや発表を通して、自分の気づきや考えを共有しようとする態度が見られる。

6. 指導観

(1) 単元観：

本単元では、「Accessible Japan」という実在の取り組みを題材とし、観光バリアフリーや共生社会といった現代的で探究性のあるテーマを扱う。単なる英文読解にとどまらず、「日本の観光をより良くするには?」「誰もが暮らしやすい社会とは?」という問いを通して、生徒自身の価値観や社会観と向き合うことを目的とする。

また、小学校段階では「障がいのある人との関わり」や「思いやり・多様性」を扱う道徳教育に触れ、中学校では「自分と他者」「社会との関わり」をキーワードとする英語学習を行ってきた。本単元ではその学びの延長線上に立ち、「英語を使って社会とつながる」経験を提供する。

加えて、本内容は公共・福祉・情報・国語・探究などとの教科横断型学習にもつながるテーマであり、将来の進路やキャリア形成においても汎用性の高い学びを得ることができる。授業では、語彙・文法を基盤としながらも「問いを軸とした精読」「対話による気づき」「発信による思考の深化」を繰り返し、思考力・判断力・表現力を育成することを目指す。

(2) 生徒観：

対象となる2年生は、英語によるコミュニケーション活動に対して一定の関心を示す一方で、「自分の考えを英語で話す・書く」ことには不安を感じる生徒も少なくない。また、暗記中心の学習に慣れており、問いに向き合って考えを深めるような活動や、他者と対話しながら自分の意見を調整する経験はまだ十分ではない。

そこで本単元では、難しい語彙や構文を一方向的に教えるのではなく、文脈の中での推測や、英語の「使いどころ」に焦点をあてながら、生徒が自ら言葉の意味と役割をつかめるような指導を行う。また、ペア・グループ活動を豊富に取り入れ、「一人で話す」こ

とへの心理的ハードルを下げ、安心して発話できる環境を整える。

7. 単元の指導計画と評価計画 (全 13 時間)

時	目標 (◆) と主な活動 (○)	評価の観点<方法>
1	◆「Accessible」の意味を語源から考え、身近な不便を共有し「自分ごと化」する。 ○ Prefix/Suffix ゲーム→写真観察→「Take a Moment to Think」のペア対話→生徒自身でバリアフリーの最新グラフを検索して比較	主体性<語彙の応用・対話参加> 思考力<自分の生活と結びつける>
2	◆Part1の精読①: Joshの生い立ちや動機を把握する ○ 音読、Q&A、内容整理、キーワード強調	知識・技能<内容理解> 判断<要点把握>
3	◆Part1の精読②: Joshの実体験をもとに、「自分だったらどうするか」を想像し行動に結びつける。 ○ Your Reaction、ペア対話・ロールプレイ→自己決定の記述	表現力<意見の具体性> 主体性<発話・記述>
4	◆Joshが Accessible Japan を立ち上げた理由・背景を理解し、自分の言葉で説明できるようにする。 ○ 語彙導入 (クイズレット→英英→発音練習) →本文精読 (前半) →段落別の問いで深掘り→音読活動 (「伝える」音読)	知識・技能<読解・語彙理解> 思考・判断<根拠のある意見> 表現<音読の工夫・伝達力>
5	◆Joshのエピソードから、情報が人を動かす力について考え、自分の意見をもつ。 ○ 黙読→True/Falseで内容確認→本文精読 (後半) →変化の要因や心のバリアに注目→音読 (キーワード音読+相互フィードバック) →「「情報」が人を変えるって?」という問いで振り返り	知識・理解<本文内容の把握> 思考・判断<変化の要因を分析> 主体性<音読・記述への積極参加>
6	◆Part2 発展: 「Japan は accessible か?」という Grisdale の発言に対して、自分の意見をもち、実際に Accessible Japan のサイトを見て根拠に基づいた判断をする。 ○ Your Reaction で意見を言語化/サイトで観光地のアクセシビリティを調査/構文を使って再考・英語で発表	思考・判断<根拠に基づく意見の形成> 表現<分詞構文・強調構文を活用した英作文・発表> 主体性<情報収集・対話・振り返りへの積極的参加>
7	◆Joshの語りを通して、日本にあるバリアを知り、障がいのある人の視点から本文を読み取る。 ○ 写真→問い→語彙→本文精読→バリアの整理→ニュース記事 (なにわ一水) →自分の学校のバリアを考え記述	知識・技能<語彙・内容の理解> 思考・判断<バリアの整理と社会的視点>

8	◆社会的課題とビジネスの両立について考え、提案を考える。 ○ 精読 (後半) →ツーリズムの展望把握 ○ ジグソー活動: 店長・ガイド・旅行者に分かれて立場別提案 ○ グループまとめ+発表	知識・技能<読解と視点>
9	◆Accessible な社会を実現するために自分ができることを考える。 ○ Your Reaction: 「なぜホテルは 1%しか Accessible でないのか?」ディスカッション ○ ラウンドテーブル: 「もっと誰でも楽しめる観光地にするには?」 ○ ふり返り+アクション宣言: わたしの「Accessible Japan」プラン	思考・判断・表現<アクション内容の具体性・実現可能性>
10	◆Part4 精読①: Josh の 2つの信念と行動を読み取る。 ○ 音読→2 原則の整理→質問で深掘り	知識・技能<文構造・考察>
11	◆Part4 発展: 動画視聴と感想共有→未来の観光について考える。 ○ Sights & Sounds 聞き取り→感想発表→「私の観光提案」構想	聞く・話す<意見の共有>
12	◆Wrap It Up: 復習と定着。総まとめと意見整理。 ○ 穴埋め→選択問題→自由記述→自分の一言英作文	知識・技能<定着度チェック>
13	◆旅行プラン作成・発表→相互評価 ○ Think→Talk→Write→プレゼン→評価カード	表現力<英語による発表> 協働性<相互理解・助言>

8. 本 時 (全 13 時間中の第 7 時)

(1) 本時の目標:

Josh の語りから、日本におけるバリアの現状や課題を理解するとともに、実際の社会で進むバリアフリーの取り組み (温泉ホテル: なにわ一水) を通じて、多様な人が安心して暮らせる社会について考える力を育てる。また、自分たちの身の回りにある「バリア」にも目を向け、気づきや改善のアイデアを、簡単な英語や日本語で表現する力を養う。

(2) 本時の展開:

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 (0-6 分)	○教科書 (p.47) の写真を見て「この場所、誰にとって「バリア」か?」 ・個人で考える (バリアになっ	・語彙支援 (steps, narrow entrance など) を PP に表示 ・自由な意見を受け	【知識・技能】前時の理解 【思考・判断】他者の立場に立つ視

	ている物、困る人をワークシートに記入) ・ペアで意見交換(会話テンプレ使用)	入れる雰囲気づくり	点の獲得 【関心・意欲】探究的な問いへの関心
展開① (6-11分)	○新出単語確認(モデル音声→全体でリピート) ○ペアで語彙クイズ出し合い(日本語→英語/交代制)	・語彙が意味だけでなく音とセットで定着するよう意識 ・クイズ形式で楽しく反復	【知識・技能】語彙理解
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">         発問:「日本のホテルで車いす対応の部屋は何%?」 → 本文で答えを探そう       </div>			
展開② (11-30分)	○本文精読(Section3冒頭～for people in wheelchairs.まで) ・本文解説(文構造&単語) ・情報整理プリント記入(本文中のバリア&改善点) ・音読(スラッシュリーディング)	・問いをもとに目的意識を持たせる(例:「日本のホテルの課題は?」) ・音読は「伝える音読」になるよう評価項目を明示(声・抑揚・アイコンタクト)	【知識・技能】本文と語彙の理解 【思考・判断】Joshが感じた問題に気づけるか
展開③ (30-40分)	○世界の事例「なにわー水」を知る →ホテル「なにわー水」の簡易ニュース記事を読む。 ・英語ニュースと日本語訳を見比べて穴埋め記入 ・答え合わせ	・やさしい語彙の英文で構成/ヒントと文テンプレを提示 ・書けない生徒は日本語からOK	【知識・技能】【関心・意欲】世界の取り組みに目を向けられるか 【思考・判断・表現】理由を含めて表現できるか
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">         発問①:「Who can enjoy this hotel?」 発問②:「Why is it good for them?」       </div>			
まとめ (40-50分)	○ 高校の中にある“バリア”を考える	・自分ごと化できるよう促す	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">         発問: 高校の中にバリアがあると感じる場所がありますか? →「どこにバリアがある?」「どうしたらより良くなる?」       </div>			
	・ペアで話し合う ① バリアがあると感じる場所	・「階段しかない教室」「保健室が1つし	【主体性】身近な問題に関心を持って

	について ② 改善アイデア考える ③ 数人に発表してもらう	かない」など例を出す ・単語支援リストを提示して、英作文のハードルを下げる	るか 【表現】短くても意見が表せるか
	○最後にループリックで自己評価(音読・協働・意見)を記入(約2分)	・ループリックは3観点・A~Cのシンプルな形	【振り返り】自分の学びを評価・言語化できるか

(1) 板書計画

A→日  
B→英

スクリーン

(PP表示して、  
本文解説の際に  
書き込む)



(2) 授業観察の視点:(本時の目標、活動、評価の整合性、深い学びの実現等)

- 本時の目標と活動が一致しており、「問いから始まり、答えを読み取り、自分ごとへつなげる」構成になっている。
- 生徒が視覚情報(写真・ニュース)を手がかりに、自分の考えを言葉にできるよう支援されている。
- 語彙や音読活動には目的が明示されており、ペア・全体での交流が含まれている。
- 評価も活動に組み込まれており、ワークシート・発話・ループリックなど多角的に行える。
- 一人一人が「社会」と「自分」の両方の視点で考える機会が設けられている。

Lesson 3

1. make progress in ~  
≡ make advances in ~

4. divide ~ from ...  
≡ separate ~ from ...

9. meet a challenge  
≡ face a problem

13. tend (not) to ~  
≡ be (not) likely to ~

16. set up ~  
≡ start (up) ~

1 ( ) 2 ( ) 3 ( )



3

For the past decade, Japan has been making progress in creating a friendly environment for people with disabilities, but there are still many challenges to overcome. For instance, the entrances to restaurants often have steps which divide the building from the outside area. It could be a barrier for people like me. Another problem is the accessibility of hotel rooms. In fact, less than one percent of hotel rooms are accessible for people in wheelchairs.

I suggest that if we meet these challenges, we will have greater business opportunities. For example, if you make your restaurant more accessible, then you will have 10 percent more customers because 10 to 15 percent of the world population is disabled. People with disabilities tend not to travel alone. They often travel in groups or with families, which would mean many more customers.

Also, I've been working with tour companies, setting up training sessions for tour guides which help them learn how to support people in wheelchairs. If tourism supports more tourists with disabilities and provides better services, more people will come to Japan, and that will support Japan's economy.



Here I am, training tour guides.

**challenge** [tʃælɪndʒ] **overcome** [ˌoʊvərkʌm] **divide** [dɪvaɪd] **barrier** [bæriə] **disabled** [dɪsəɪbld]  
**tend** [tɛnd] **tourism** [tuːrɪzəm] **economy** [ɪkɒnəmi]

7. *less than* ~ The statue weighs *less than* 20 kilograms.

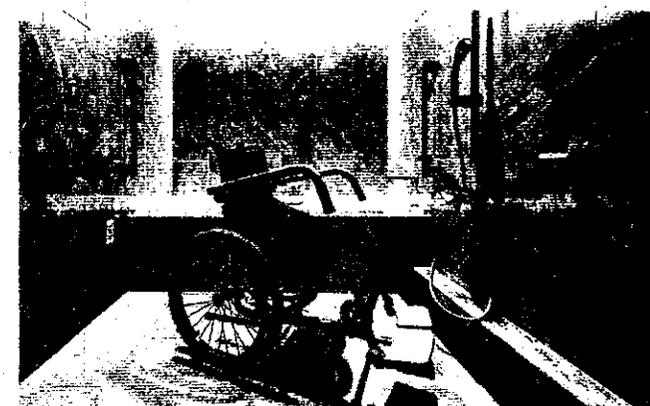


The menu is tempting, but...



An accessible hotel room

? How could you make this restaurant more accessible?



An accessible bath in a hotel

Questions

- Q-1** Grisdale talks about two challenges that people with disabilities face. What are they?
- Q-2** What does Grisdale do for tour companies?
- Q-3** Grisdale thinks that tourism for people with disabilities will create new business opportunities. Why does he think so?
  - a. Because Japan has many fascinating tourist sites.
  - b. Because better accessibility leads to many more customers coming.
  - c. Because the number of people with disabilities is increasing in the world.

Your Reaction

Less than one percent of hotel rooms are accessible for people in wheelchairs. What do you think is the main reason?

Class \_\_\_\_\_ Number \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

## Let's think about barrier free!

1. Let's look at the picture and talk! 教科書(p.47)の写真を見てください。

✎ Let's write! :

① 写真の中で、バリアになっているものは? → \_\_\_\_\_

② それはどんな人にとって困る? → \_\_\_\_\_

🗨️ ペアでの会話テンプレート:

A: Do you think it's easy for everyone to use?

B: Maybe not. It could be difficult for \_\_\_\_\_ (誰にとって)

A: Why?

B: Because there is/are \_\_\_\_\_ (バリアになっているもの)

## 2. Read the news and think

「なにわ一水」というホテルが、バリアフリーの取り組みで国際的な賞を受けました。(2025年5月)

🗨️ Question 1

Who can enjoy this hotel?

→ \_\_\_\_\_

🗨️ Question 2

Why is it good for them?

→ \_\_\_\_\_

## 3. Barriers in Our School

🗨️ What kind of "barriers" do you see in our school?

🗨️ Question 1

Are there "barriers" in our schools?

→ \_\_\_\_\_

🗨️ Question 2

How can we make our school more friendly?

Tip: I think we should add (① 物・工夫) for (② 対象となる人).

→ \_\_\_\_\_

## 🗨️ 自己評価ルーブリックカード

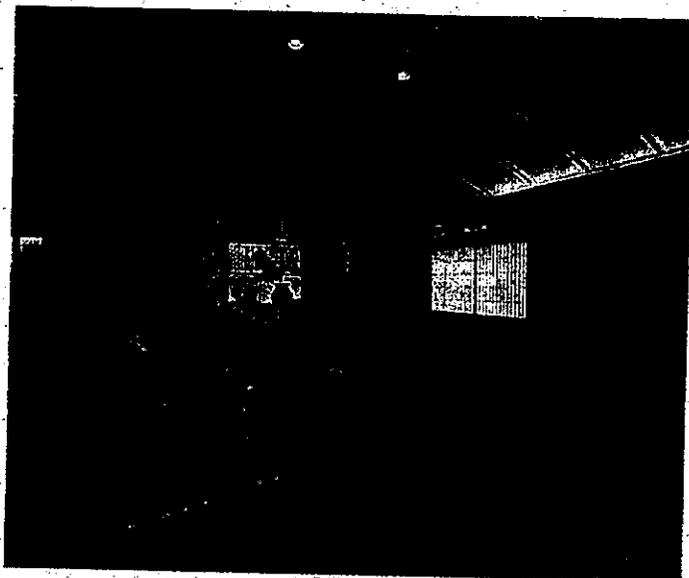
評価観点	A(よくできた)	B(普通)	C(もう一歩)
音読(伝える力)	声が大きく、相手に伝わるように抑揚もある	声が聞こえるが、感情はあまりない	小さな声で読んでいる
意見発表(内容)	自分の考えを理由とともに伝えられている	簡単な意見を言えている	意見が伝えにくい、書けていない
協働性	ペアでよく話し合いながら活動している	ある程度協力できている	ほとんど話し合いができていない

2025.5.17

# A Japanese Hotel Wins a Big International Award!

Naniwa Issui, a hotel in Matsue City, Shimane, won a big international award.

The award is called the Blue Badge Access Award. It is from the UK, and is for hotels that are easy to use for people with disabilities.



## This hotel has:

- Rooms with barrier-free design
- Wide doors for wheelchairs
- Bathrooms with special toilets
- A lift to help people get into the hot spring bath
- Special showers and chairs for safety



Because of these facilities, the hotel was the first in Japan to win this award!

The hotel says:

“We want everyone to feel safe and happy.

We will keep working to make our hotel better for all.”

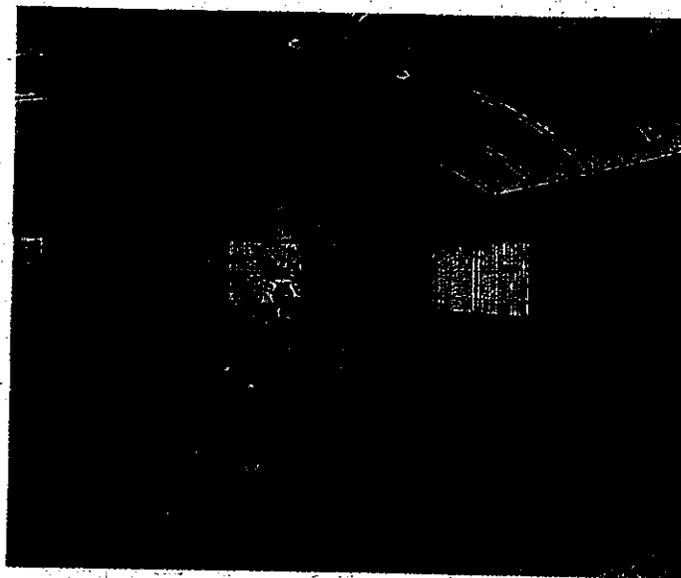
島根県松江市「なにわ一水」が、世界初の障害者にもやさしい「Blue Badge Access Awards 24 2025」を受賞！ <https://www.kankou-shimane.com/news/74222.html> (2025.6.1)より引用、写真

2025.5.17

# 日本のホテルが国際的な賞を受賞！

島根県・松江市にある「なにわ一水」が、国際賞を受賞しました。

その賞は、ブルーバッジ・アクセスアワードといって、( ) にとって使いやすいホテルに贈られるイギリスの賞です。



このホテルには次のような設備があります：

- ・ バリアフリーの客室
- ・ ( ) でも通れる広いドア
- ・ 特別なトイレのあるお風呂場
- ・ ( ) に入るためのリフト
- ・ ( ) なシャワーとイス



これらの ( ) が評価されて、日本で初めてこの賞を受けたホテルになりました

ホテルのコメント：

「( ) が安心して幸せに過ごせるようにし、これからも、よりよいホテルを目指して努力します」

島根県松江市「なにわ一水」が、世界初の障害者にもやさしい「Blue Badge Access Awards 24 2025」を受賞！ <https://www.kankou-shimane.com/news/74222.html> (2025.6.1)より引用